

## 第5学年 図画工作科学習指導案

に組 男子18名 女子19名 計37名  
指 導 者 所 崎 陽

### 1 題 材 夢を映して

### 2 題材について

#### (1) 題材の位置とねらい

本題材は、自分の表したい夢の世界を想像し、厚紙を切り取ってつくった切り絵にカラーセロハンを貼り、光の効果を生かして表す題材である。

この期の子どもたちは、直接見ることのできない空想の世界に思いをめぐらせ、個性的な発想ができるようになり、自分のイメージをもって表現しようとする意欲が高まってきている。また、様々な対象や材料にかかわりながらイメージをつくりだし、表現する楽しさを味わってきている。そして、構想を練ったり、見通しをもったりして表現活動を進めていくことができる。さらに、友達の表現意図を考えながら作品を見て、自分の表現にも生かせるようになってきている。

そこで、夢の世界を光に映して切り絵に表すことは、自分の思いに合わせて光を生かしながら形や色を工夫することができるので、輝きのある夢の世界・見たことのない美しい夢の世界にしていきたいという意欲を高めていくことができる。また、光という新たな表現手段から想像を広げたり、厚紙を丈夫にするための形を考えたり、光と影の効果を考えて色の組合せ方を試みたりして工夫することができるためイメージをつくりだし、つくりだす力を伸ばすこともできる。そして、参考作品や友達の作品など、互いの作品や考えを紹介し合う時に、形や色の組合せの美しさや丈夫な切り抜き方、接着の仕方の工夫に気付いたりすることで、自分のイメージに生かすことができ、感じ取る力を伸ばすこともできる。さらに、思いに合わせた夢の世界を丈夫に美しく表現できるように、これまで習得してきた技能・知識を生かし、より一層高めていくことで、知識・理解、技能を高めていくことができる。この学習は、第5学年の板を材料としてつくる「夢の鏡」で将来の自分の姿を想像しながら、画面の構成を考えたり、明暗のバランスを考えたりする活動へと発展していく。

#### (2) 指導の基本的立場

光を生かした切り絵には、自分がイメージした夢の世界を、切り絵に表し、その形の面白さや色合いや組合せの美しさ、材料の加工を楽しめるよさがある。本題材では主として厚紙とカラーセロハンを材料として取り扱う。厚紙は、カッターナイフで形を切り抜くことができ、ちぎれにくい丈夫さがある。また、のりを用いて貼り付ける土台としての強さもある。さらに、カラーセロハンは透過性があるため光の表現がしやすく、重ねて貼ることで混色の学習内容も生かすことができる。このような材料の特徴を生かすことで、光に映し出された色の組合せを生かして夢の世界を表現したいという意欲をもつことができる。

具体的には、まず、光を生かした夢の世界を切り絵に表すことに興味をもたせるために、複数の参考作品を提示し、イメージや形、色、丈夫さ等の視点で鑑賞させる。そして、製作の過程について見通しをもたせるために、製作の手順や必要な材料、用具について考えさせ、試しにつくる活動を設定する。さらに、自分の表したい夢の世界を具体的にイメージできるように、試しにつくったことを生かしてアイデアスケッチをかかせたり、修正させたりする。

次に、形や色について具体的に考え、つくることができるように、見るポイントを生かしながら、切る線や色の組合せ等を考えさせる。また、切りながら光に透かして色の組合せを考える場を設定し、切る前と切った後の感じ方の違いや色の組合せの違いを比べさせる。

最後に、自分や他者の表現のよさに気付けるように、アイデアスケッチと完成した作品を比べさせたり、活動を振り返らせたりして、新たなイメージをつくってきたよさを感じ取らせる。

このような学習を通して、子どもたちは自分や友達の思いやイメージを基に、表現の見通しをもって取り組み、イメージを新たにつくりだしながら表現するよさを感じ取ることができる。

### (3) 子どもの実態

本学級の子どもたちはこれまでの学習を通して、図画工作科に対して(※1)意欲が高い。しかし、「好きではない」と答えた子どもが2名おり、「絵にあらわすことが苦手」なことを理由に挙げている。

実態調査 5年に組 37名 (4月中旬実施)	
1	図画工作への興味・関心について ※1 好き(35名) 好きではない(2名) (好きではない理由) ・ 絵にあらわすことが苦手
2	夢の世界を想像することについて ※2 できる(37名) できない(0名) (主な夢の世界) ・ 未来 ・魔法 ・本 ・平和 ・お菓子など
3	見たり, 話したりすることについて ※3 好き(33名) 好きではない(4名) (好きな理由) ・ アイデアが思い浮かぶ (好きではない理由) ・ つくりに没頭したい
4	カッターナイフの適切な使い方について (実技) ※4 使える(23名) 使えない(14名) (使えない状況) ・ カッターナイフの向きを斜めにして切る 曲線を切るときに, 線に沿って切れない

領域によって苦手意識をもっていることがわかる。そこで、アイデアスケッチをかく際に、イメージを言語化させ、具体的に「いつ」「どこで」「だれが」など観点をもたせてかかせる。夢の世界を想像することについては、(※2)全ての子どもが想像することができた。そこで、より想像を膨らませ、表したいことが明確になるように、アイデアスケッチを生かしながら中心と周りの関係を捉えさせ、構想を練らせる。さらに、鑑賞の場を設定し、イメージをつくりだすことができるようにする。また、見たり, 話したりすることについては、(※3)好きではない子どもが3名おり、つくりに没頭したいと感じている。そのため、表現の課題をつかみ、課題を明確にして他者と交流し合う必要感をもてるようにする。さらに、カッターナイフの適切な使い方については、(※4)適切

に使えない子どもが、14名いる。使えない状況として、カッターナイフの向きが斜めになってしまい、切った箇所がうまく切れないことと、曲線に沿って切れないことが見られた。そこで、視覚を通して理解を深められるように、映像を使って適切な使い方を示す。

### (4) 指導上の留意点

ア「思いをもつ・見通す」段階では、始めに、夢の世界をイメージできるように、子どもの実態を踏まえて、複数のテーマの参考作品を提示しアイデアスケッチをかかせる。特に参考作品を提示する際は、形や色、丈夫さについて考えさせるために、イメージが伝わりやすい構成とそうでない構成とを比較させたり、丈夫にできているものとそうでないものを比較させたりして、見るポイントに気付かせる。さらに、アイデアスケッチをかく際は、「いつ」「どこ」「だれが」「だれと」「なにをしている」など、イメージを具体的にとらえさせるために、自分のイメージを言語化してかかせる。

イ「思いを表現する」段階では、始めに、新たなイメージをつくりだすことができるように、試しづくりをさせ、形と丈夫さの視点で工夫することをまとめる。そして、そのことを生かしてアイデアスケッチの修正と下書きをさせ、切る部分と残す部分をとらえさせる。また、カッターナイフの適切な使い方についての技能を高めることができるように、試しづくりの際、映像を使ってカッターナイフの向きに着目させ、切り跡を確かめながら製作させる。そして、自分の課題を解決できるように、必要に応じて話し合うようにする。

次に、イメージに合わせて色の組合せの工夫をすることができるように、複数の参考作品を提示し、色の組合せの違いによって感じ方が違うことをとらえさせる。そして、子どもたちが切り取ってつくった厚紙を複数枚、印刷し色を塗らせ、それぞれを鑑賞し合いながら比較し、自分のイメージに合う配色を見付けさせる。さらに、カラーセロハンを貼る時には、光に当てて確かめながら自分のイメージに合った色の組合せを考えさせる。

ウ「思いを味わう」段階では、製作を通して感じてきた作品や材料、友達とのつながりを感じ取ることができるように、アイデアスケッチと完成した作品を比べさせたり、学習カードを使って自分の活動を振り返らせたりしながら、互いの表現のよさをイメージや形、色、丈夫さ等の視点で振り返らせる。

### 3 目 標

- (1) 夢の世界を、光の効果を生かした切り絵に表す楽しさに気づき、進んで夢の世界を表現することができる。
- (2) 〇 表したい夢の世界のイメージをもち、つくることを試しながら画面の構成や配色について考えることができる。
  - 〇 友達と互いのイメージや形、色などに工夫についてのよさを感じ取り、自分の表現に生かすことができる。
- (3) 切り絵の特徴を理解して、カッターナイフやのりを適切に用いながら厚紙を加工し、丈夫に表現することができる。

### 4 指導計画 (全 9 時間)

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	1 参考作品を基に、光を生かして切り絵に夢の世界を表すことについて話し合う。 【見るポイント】 〇中心と周りの関係 〇配置 〇色の組合せ 〇丈夫さ 〇部分と部分のつながり 〇太い線	↑ 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇 自分の思いを、光を生かして切り絵に表すよさに気付かせるために、主題の異なる参考作品を比較させ、どんなイメージでつくられているかを考えさせる。</li> <li>〇 参考作品から題材の見るポイントに気付かせるために、太い線で画面が構成されていることや複数の色のカラーセロハンが組み合わさって色が構成されていることを理解させる。</li> <li>〇 作品が完成するまでの過程や必要な材料、用具について考えさせるために、必要な活動内容を基に学習計画を考えさせる。</li> <li>〇 必要感をもって試しづくりに取り組むことができるように、見るポイントとイメージを関係付けながら取り組ませ、気付いたことを全体で共有できる場を設定する。この際、太い線にかくこと、部分と部分をつなぐこと、ものの特徴をとらえ、強調したり、省略したりして単純な形にすること等を重点に取り扱う。</li> </ul>
	2 題材のめあてについて話し合う 夢の世界を切り絵に表そう。		
思いを表現する	3 学習計画を立てる。 どんな手順で進めれば、完成できそうかな。試しにつくるとよく分かるな。	↓ 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇 必要感をもって試しづくりに取り組むことができるように、見るポイントとイメージを関係付けながら取り組ませ、気付いたことを全体で共有できる場を設定する。この際、太い線にかくこと、部分と部分をつなぐこと、ものの特徴をとらえ、強調したり、省略したりして単純な形にすること等を重点に取り扱う。</li> <li>〇 自分のイメージを丁寧に形に表すことができるように、カッターナイフの取り扱い方について掲示資料やプロジェクターを活用する。</li> <li>〇 自分のイメージを具体的にとらえることができるように、試しづくりで気付いたことと関係付けながら太い線で下書きをかかせる。その際、イメージをはっきりさせるために、アイデアスケッチができた時に、友達と見るポイントと関係付けながら修正させる。</li> </ul>
	4 表したい夢の世界を考える。 (1) 試しづくりをする。 太い線がかいて、部分と部分をつなぐといいな。細かい表現は難しいから単純な形にするといいな。 (2) アイデアスケッチをする。 試しづくりで分かったことを生かして、自分の夢の世界を表そう。		
思いを味わう	5 夢の世界を切り絵に表す。 (1) 画面構成を考え、切る。 (2) 色の組合せを考える。 いろんなパターンの色の組合せができたな。光に透かした時のことを考えて決めよう。	↑ 5 (本時 6 / 9)	<ul style="list-style-type: none"> <li>〇 自分のイメージを確認しながら表現できるように、切ることと、光にかざすことを繰り返しながら製作させる。</li> <li>〇 <b>自分のイメージに合った色の組合せを考えさせるために、切った厚紙を複数印刷し、色鉛筆を使って塗らせ、色の組合せを決めさせる。そして、友達と交流する場を設定し、互いに意見を出し合わせる。</b></li> <li>〇 自分のイメージに合った表現をさせるために、カラーセロハンを貼りながら、光にかざして感じを確かめさせる。</li> <li>〇 製作の過程を振り返り、自他の表現のよさを感じ取らせるために、光に透かして見るポイントやイメージを基に互いに話し合わせる。</li> </ul>
	6 友達と互いの作品のよさを伝え合い、学習を振り返る。 身近にある光を生かすことで、きれいな切り絵ができたな。		



## 5 本時(6/9)





### (1) 目標

光を生かした切り絵の色の組合せを考えることに興味をもち、友達と進んで考えることを通して、自分のイメージに合った色の組合せを見付けることができる。

### (2) 本時の指導に当たって

導入では、目的をもって色の組合せを考えさせるために、学習計画を振り返らせながら自分の進み具合を確かめさせ、クラスで共有できるめあてを立てさせる。また、展開では、自分の思いやイメージに合った色の組合せを見付けることができるように、友達の考えを生かしながらイメージを基に色の組合せについて考えさせる。その際、色の組合せを比較しながら考えさせるために、試しに色を塗った紙を用意させ、どのような考えで色の組合せを考えたのか伝え合わせる。そして、自分のイメージに合う色の組合せを決めさせる。

### (3) 実際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
思いをもつ・見通す	 <p>今日は、自分のイメージにあった色の組合せを見付けたいな。</p> <p>1 参考作品を基に、色の組合せのパターンと感じ方の違いについて話し合う。</p> <p>【見るポイント】 ○中心と周りの関係 ○配置 ○色の組合せ ○丈夫さ ○部分と部分のつなぎ ○太い線</p> <p>2 学習のめあてについて話し合う。</p> <p><b>イメージに合った色の組合せを見付けよう。</b></p> <p>3 色の組合せを友達と考える。</p> <p>【試しにぬった色の組合せを複数、鑑賞し合う】</p> <p>【友達の考えを生かして色の組合せを考える】</p>	(分) ↑ 10 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 前時の学習(色を切り抜いた厚紙に色鉛筆で色を塗った学習)を振り返り、イメージと見るポイントを関係付けながら意欲的に取り組ませるために、様々な色のパターンを参考作品を提示する。</li> <li>○ イメージと色の組合せを関係付けながら製作させるために、色の組合せについて友達とアイデアを出し合う場を設定する。その際、視点をもって話し合わせるために、中心が目立つように工夫したところや課題等について話し合わせる。</li> <li>○ <b>色の組合せを作品の全体と部分で比較させるために、「全体的にどんな色にしたいのか」「〇〇の部分はなぜこの色にしたのか」を、イメージを基に話をさせる。</b></li> <li>○ <b>話し合ったことを生かして、新たなイメージをつくりださせるために、「友達の考えのよさはどんなところにあるのだろう」「なぜ、友達はこの色の組合せがいいと言ってくれたのだろう」と発問し、友達の考えを生かして色の組合せを考えさせる。</b></li> </ul>
	<p>思いを表現する</p> <p>イメージ:空に浮かぶお菓子の世   イメージ:登場人物が本から飛び出る世界</p> <p>【見るポイント】○色の組合せ</p> <p>○中心が目立つような色の組合せはどれかな。 ○ケーキはどんな色がいいかな。</p> <p>○登場人物が目立つように、周りの色をどうしようかな。 ○登場人物の服装は何色がいいかな。</p> <p>友達が、中心を目立たせるためには周りを暗くするといいとアドバイスしてくれたな。</p> <p>友達が、イメージに合わせて赤色がいいとアドバイスしてくれたな。</p>	↑ 30 ↓	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達の考えを自分に生かすよさを感じ取ることができるように、練り直した考えが誰の考えで変容したのかを発表させる。</li> <li>○ 話し合ったことを生かして、製作することができるように、机間指導をしながら、「どうしてこの色の組合せを選んだの?」「この色の組合せを選んだ理由は何だったの?」と発問し、つくりだした新たなイメージを基に製作している子どもを称賛する。</li> <li>○ 自分の考えた色の組合せを工夫させるために、光に透かした感じを確かめてつくりさせたり、製作の途中に友達と工夫について自由に話し合わせたりする。</li> <li>○ カッターナイフを適切に使わせるために、掲示資料を板書する。</li> <li>○ 自分の表現のよさを感じ取ることができるように、学習カードに活動の振り返りを書かせ、新たなイメージがつくりだされた過程を称賛する。</li> </ul>
思いを味わう	<p>中心が目立つように、周りを暗くしてケーキを明るくしよう。</p> <p>登場人物の服はイメージに合わせて赤色にしよう。</p> <p>新たなイメージ:黄色いお菓子が紺色の空に浮かぶ世界</p> <p>新たなイメージ:赤い服を着た登場人物が緑の本から飛び出る世界</p> <p>4 カラーセロハンを貼る。</p> <p>5 学習カードで、本時を振り返り、自分が工夫したことを発表する。</p> <p> 色の組合せを比較することで、自分のイメージに合った組合せが見つかったな。</p>	↓ 5 ↓	

図画工作